令和８年度岡山県アレルギー疾患医療連絡協議会
次　　第

日時：令和８年１０月２９日（木）
１８：００～１９：３０
場所：ピュアリティまきび　エメラルド

１　開　会

２　議　事

（１）今年度までの取組について

ア　令和７年度岡山アレルギー疾患講演会について　資料１～４
　　アレルギー疾患拠点病院関連事業について

イ　岡山県小児アレルギー疾患連携セミナーについて　資料５　資料６

ウ　アレルギー疾患に関する啓発動画の公開について　資料７　資料８

エ　アレルギー疾患専門医療機関リスト化調査について　資料９

（２）来年度の取組について

ア　岡山県アレルギー疾患事業について　資料１０

（３）その他

３　閉　会

岡山県アレルギー疾患医療連絡協議会委員名簿

R8.6.21現在

役　職	氏　名	備　考	出席者
南岡山医療センター　名誉院長	谷本　　安	医療機関（拠点病院）	○
岡山大学学術研究院　保健学域　検査技術科学（岡山大学病院 呼吸器・アレルギー内科）教授	宮原　信明	医療機関（拠点病院）	○
岡山大学病院　耳鼻咽喉・頭頚部外科 講師	牧原 靖一郎	医療機関（拠点病院）	○
岡山大学学術研究院　医歯薬学域　小児急性疾患学講座　准教授	津下　　充	医療機関（拠点病院）	○
岡山大学大学院　医歯薬学総合研究科 皮膚科学分野　教授	森実　　真	医療機関（拠点病院）	○
岡山県医師会　外部理事		専門医療従事者	
南岡山医療センター　看護師　小児アレルギーエデュケーター	黒岡　昌代	医療機関（拠点病院）	○
岡山県薬剤師会　副会長	成廣　和朗	専門医療従事者	○
岡山県栄養士会　会長	坂本 八千代	専門医療従事者	○
岡山県看護協会　会長	二宮　一枝	専門医療従事者	○
岡山県教育庁保健体育課　課長	片岡　敏行	教育関係者	○
岡山県愛育委員連合会　副会長	浅野 ツヤ子	県民	○
岡山県栄養改善協議会　会長	兒山　和子	県民	
岡山県保健所長会	宮原　勅治	真庭保健所長	○
岡山県保健医療部健康推進課　課長	岡崎　進一	岡山県職員	○

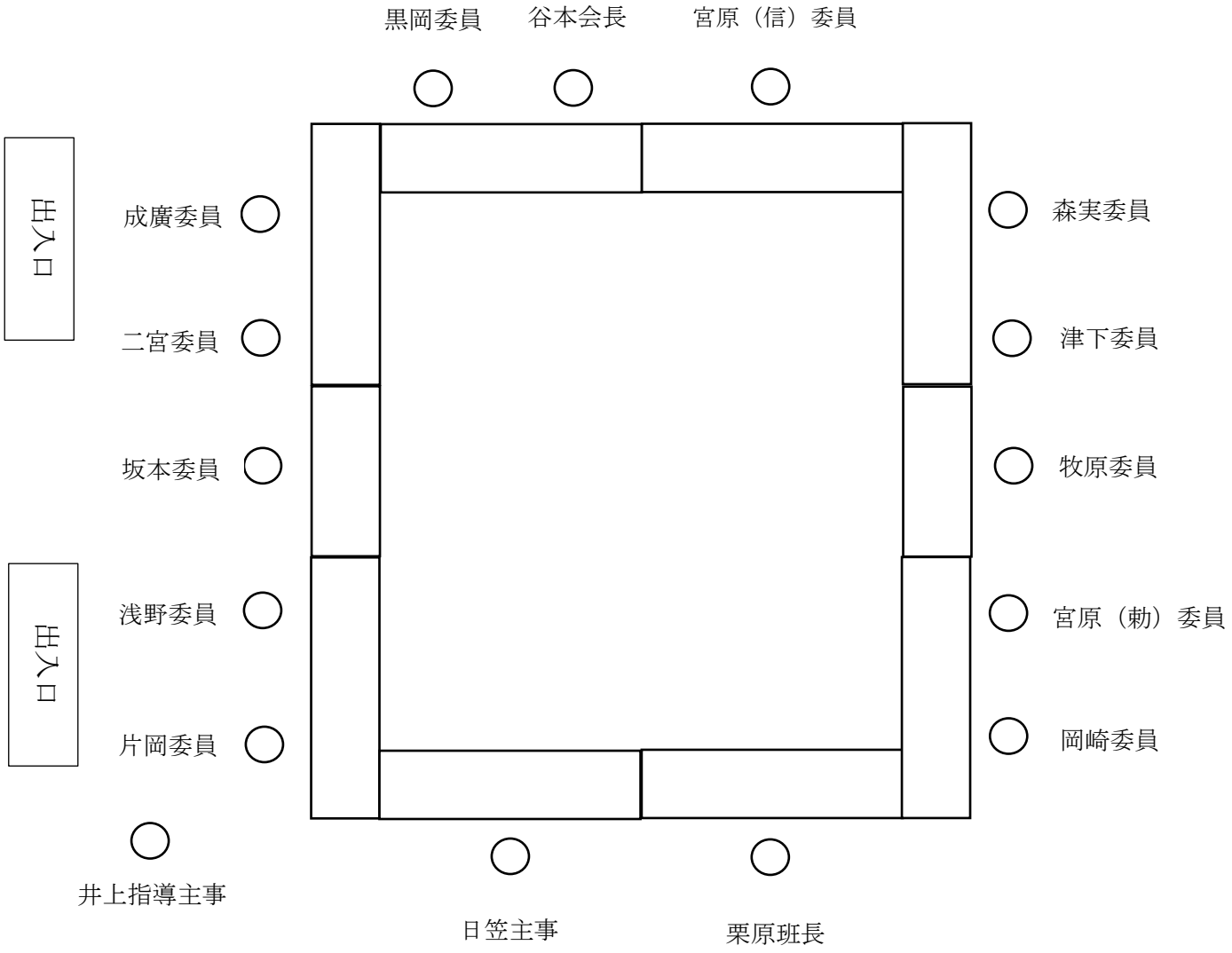
［出席者］

岡山県教育庁保健体育課　指導主事（副参事）	井上　典子	

事務局　保健医療部健康推進課
総括副参事　　栗原　修一
主事　　日笠　恵介

令和８年度岡山県アレルギー疾患医療連絡協議会　配席図

日時：令和８年 10 月 29 日(木)18:00～
場所：ピュアリティまきび



資料１

令和８年度岡山県アレルギー疾患医療連絡協議会での報告事項

１．令和７年度岡山アレルギー疾患講演会の報告
資料参照

２．令和８年度の拠点病院関連事業
・倉敷市医療給付課より依頼
「倉敷市ぜん息児のための水泳教室」における学習会での講義と実技指導
講師：小児科　産賀　温恵医師、
小児アレルギーエデュケーター　黒岡　昌代
対象：水泳教室へ参加する親子８組
令和８年７月 22 日水曜日に開催した



・岡山県備中保健所より依頼
「食物アレルギー対応」について講義
講師：管理栄養士　植田　麻子、小児アレルギーエデュケーター　黒岡　昌代
対象：備中保健所本所および井笠支所管内の給食施設の職員
令和８年 10 月 27 日火曜日に実施

・岡山県/岡山県小児科医会/大塚製薬株式会社共催
「第３回岡山県小児アレルギー疾患連携セミナー　～災害とアレルギー～」
令和８年８月 29 日土曜日に開催した
このセミナーについては、「アレルギー疾患対策従事者研修」において、拠点病院が行う取組事例のひとつとして、他県の取組と合わせて取り上げられました。

資料２

令和７年度アレルギー疾患講演会について

１．開催概要

（１） 開催日時・会場について

開催日時：令和８年２月 15 日 13 時から 16 時 30 分

会場：岡山国際交流センター　２階　国際会議場

オンデマンド配信期間：令和８年２月 25 日から３月 13 日

（２）参加申込、参加人数等について

講演会申込総数：169 名（内訳：医療従事者 80 名、教育保育関係者 61 名、その他 28 名）

講演会会場参加人数：57 名　実践型研修参加人数：20 名

オンデマンド配信視聴人数：60 名（視聴率 36%）

（２） 講演内容について

講演１座長　南岡山医療センター　名誉院長　宗田　良先生

講演１「眼科領域におけるアレルギー疾患」

講師　岡山大学病院　眼科　助教　松前　洋先生

講演２、３座長　南岡山医療センター　院長　井上　美智子先生

講演２「アレルギー疾患のための災害への備えと対応」

講師　岡山県保健医療部健康推進課健　主任　宿野　沙紀子先生

講演３「アレルギー疾患における災害対応」

「食物アレルギーにおけるアナフィラキシーへの対応」

講師　岡山大学学術研究院医歯薬学域小児急性疾患学講座　准教授　津下　充先生

（３）実践型研修について

エピペン®の使用方法に関するデモンストレーションと食物アレルギーにおける緊急時対応について

ロールプレイとグループワークを行い、20 名の医療従事者、教育・保育関係の参加があった。

２．アンケート結果について（別紙参照）

講演会および実践型研修ともに高評価であった。

資料３

アレルギー疾患講演会参加者アンケート結果

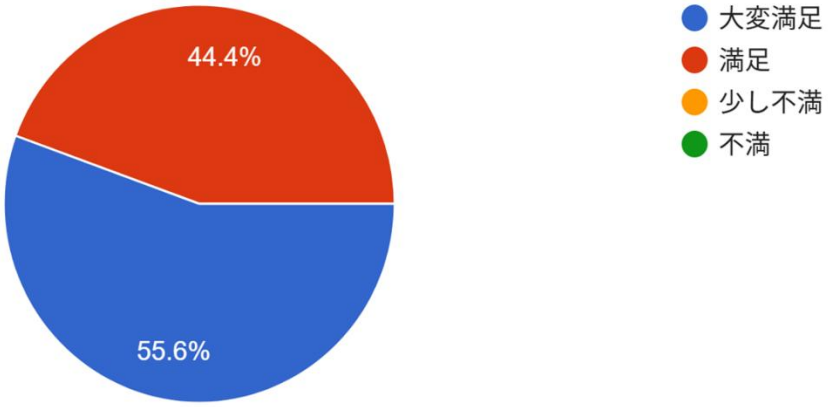
1.回答される方の属性を教えてください（複数回答可）

55 件の回答



2.講演内容について感想を教えてください

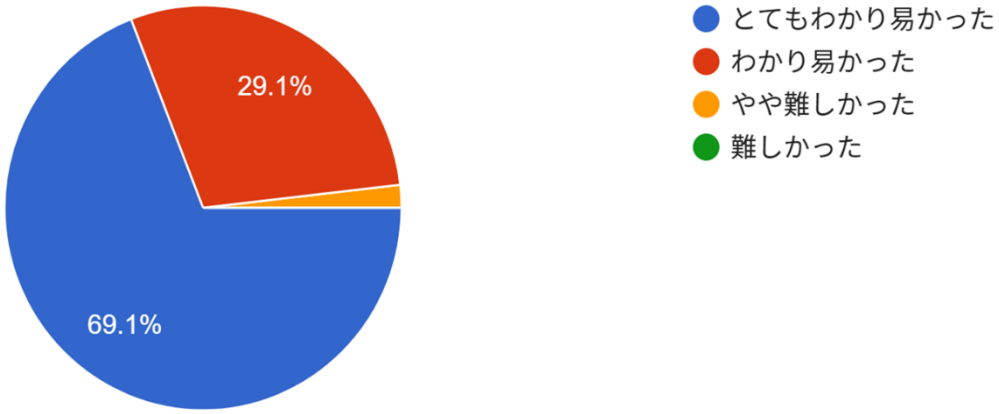
54 件の回答



資料３

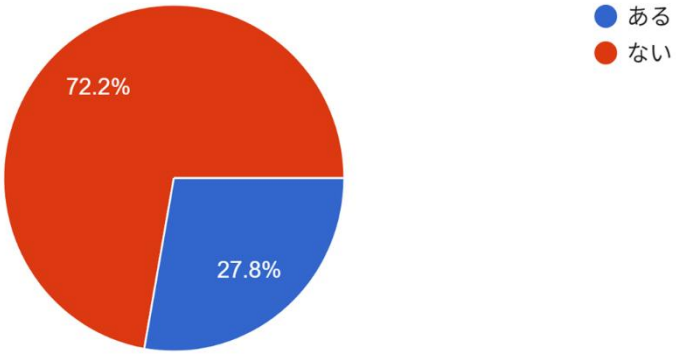
3.講演内容はわかり易かったですか

55 件の回答



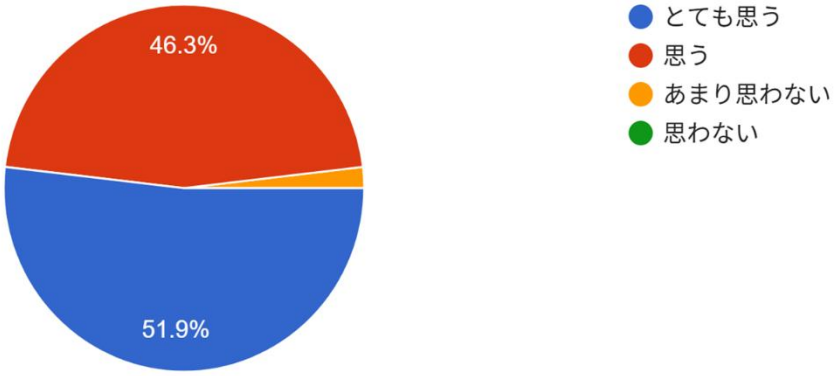
4.回答される方のご所属施設でアレルギー疾患に...る災害対応について啓発をされたことがありますか

54 件の回答



5.本日の講演会をふまえ、ご所属施設でのアレル...における災害対応について啓発が必要と思いますか

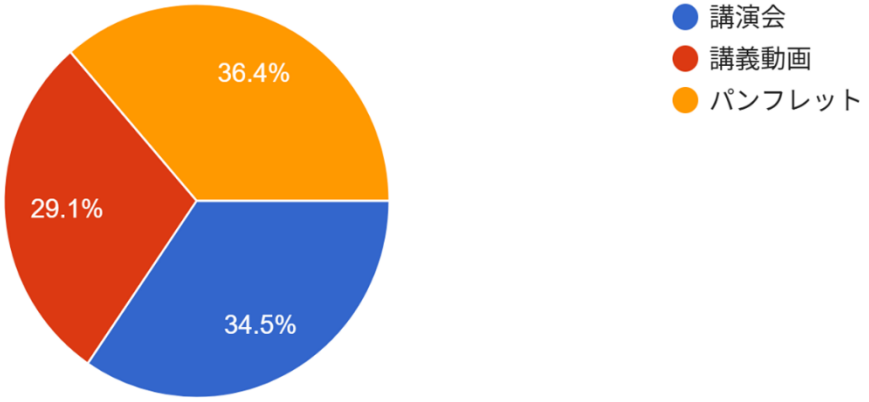
54 件の回答



資料３

6.アレルギー疾患における災害対応の啓発に必要と思うものはなんですか

55 件の回答



7.アレルギー疾患における災害対応についてご意見を記入してください

災害時で食物アレルギー患者は要配慮者という言葉が心に残った。患者自身が周囲から配慮してもらうために、アレルギーカードやビブスが有効と初めて知った。　　教育関係者

薬局でもアレルギー連絡カードの配布を行いたいと感じた。　　薬剤師

災害時はホコリやストレス、物資の不足によりアレルギー疾患が悪化しやすくなるため、日頃から必要な薬の確保、食物アレルギーの場合は、エピペンやアレルギー除去食などの備蓄をしておく事が重要で、情報カードを用意し、周囲に情報共有しておくことが命を守る備えになることがわかった。　保育関係者

皆が、もっとアレルギーに対して理解を持つことが重要だと思う。当事者や当事者家族でしか分からないこともあるが、何かあった時、助けを求められた時、どうすればよいのか大人はもちろん子どものうちから知っておければと思う。災害時はなおさら、状況も緊迫した中になると思うので、一般的な常識の中で皆に根ずいていればとても良いと思う。　　保育関係者

アレルギー疾患関係なく自分で災害への備えをしておくことがとても大切だと思いました。
避難所などでは周囲の理解と協力がないとアレルギーに関しては危険があるので、日頃から多くの人への周知も必要だと感じました。　　看護師

必要性を感じます。但し、災害対応においては、様々な事情をお持ちの方々がおられ、それぞれの方に適した対応がどこまでなら可能か総合的に見直す必要があると思われます。　　行政関係者

今回のエピペンの動画のように災害時　すぐ救急車が来れない場合アレルギー症状が出た時の対応動画もあると分かりやすかった。　　看護師

災害時にはアレルギー疾患を持つ人は要配慮者となり、誤食してしまうと命が危険にさらされることにもなるので、しっかりみんなが同じ意識を持てるようにしていくことが大事だと思いました。　教育関係者

食物アレルギーについての周囲の理解を促していくことがとても重要だと思います。自助で備えておくことはとても大切なことですが、やはり周囲の理解を得られないとつらい部分が多いと思います。炊き出し等でのアレルギー成分の確認がどこまでできるのか、実際にどのように対応した事例があるのかなども分かれば、もしもの時に役立てられそうだと思いました。　教育関係者

アレルギー疾患における災害対応について以前よりも進んできているが、食物アレルギーのある方々だけではなく、ない方々への啓発が大切になってくると思う。　教育関係者

医療機関からの啓発　栄養士

必要だけど、後回しにされがちなので、こういう講演会で定期的に意識を高めていく必要があると思います。
行政関係者

なし　医師

誰もがわかりやすい動画や資料があるとありがたいです。　教育関係者

当事者でも何が必要かや、それが我が子だと余計に分からなく、不安になると思う。当事者が知っておくこと、対策を考えておくことも大切だが、周りの人もアレルギーの人がいるかもという視点を持ってもらうだけで、変わってくるのではないのかと感じた。　保育関係者

自助は意識しておりましたが、避難所生活で要配慮者であることを自らも発信出来るようステッカーやカードを用意しておきたいです。　教育関係者

食物アレルギーのある人はまず自助が必要で、その上でアレルギーのない人もアレルギーのある避難者は要支援者であるとの認識で対応することが不可欠。一旦、アナフィラキシーショックが起こると食物アレルギーの場合30分で心停止になりうることを誰もが知っておきたい。　医師

今回、話をしていただいて園にもアレルギーのある子がいるので備蓄の用意などの参考にとてもいい勉強になりました　職員や保護者と話し合いながら準備をしたいと思います　保育関係者

日頃のからの備えを実行してもらえるように患者さんや家族を開発することが大切であると思った　薬剤師

保育園に所属しているので、子供に関して保護者に啓発していくことの必要性を感じているが、自分がどこまで踏み込んでいいのか悩みどころではある。　看護師

小さな子供では自分で伝えることができないため、いかに周りの方に気づいてもらえるか？理解してもらえる

か？の備えが大切だと再確認いたしました。　　保育関係者

災害時におけるマニュアルはしっかり共有できていても、アレルギー疾患の子の対応は担当している保育者
常駐している看護師くらいで全員が対応について知識は豊富ではないと思うので共有したいと思う
保育関係者

視覚的にわかりやすいパンフレットを使って、推奨できるといいなと思う。そのパンフレットは、病院や公共施設等に配置しておく。　　教育関係者

備蓄食品にアレルギーに対応したものがある事が分かるように掲示する　　愛育委員・ディサービス職員

学校現場においても、災害を想定して、保護者の協力を得ながら、対象者の準備をしていかなければと思いました。　　教育関係者

もっと知識が必要だと感じた　　保育関係者

災害下の混乱の中で、アレルギー疾患に対する配慮が十分に行われるのはやはり難しい点もあると感じる。そのために基本は自助であるとして、本人からアピールしたり助けを求めたりしていく意識が必要というところは強く共感できた。アレルギー疾患を持つ生徒やその保護者にも啓発したいと思った。　　教育関係者

自助の大切さをもっと伝えていかないといけないと思いました。　　行政関係者

子どもであっても大人であっても「わがまま」「好き嫌い」だと誤解されない、食事の準備の際にアレルゲンが混入されない仕組みづくり必要だと思いました。　　教育関係者

8.今後のアレルギー疾患に関する研修についてご意見やご希望を入力してください

年度末のこの時期に開催してくださってありがたいです。お医者さんのお話を直接お聞きできる、貴重な機会でした。　　教育関係者

エピペンの練習用キットはメーカーの方針で原則薬局には置けない。薬局薬剤師ではエピペンに携わらない者も多く、実物を見ることが無いまま調剤することになる者も多いと思う。こういった講習会の機会は非常に貴重である。もっと大々的にお知らせをしてほしい。　　薬剤師

アナフィラキシーについての動画を観て、まずは未然に防ぎ、起こさないことが第一であると思った。一般の方々にも情報が行き届き、少しでも知識が増え参考になればよいと思う。　　保育関係者

我が子も重度の食物アレルギーがあります。今回の講演でもあったように実際に成分を確認した時に、嫌な顔を

されたことがとてもショックだったことや、トラウマになって災害が起きた時や緊急時に不安がありました。今回のような講演を皆が聞いてくれると少しでも理解につながると思いました。”アレルギーだなんてこんな時にわがままだ”すごく言われました。
とても分かりやすく勉強になりました。ありがとうございました。　　保育関係者

アレルギー疾患に関する研修ではあまり無い内容だったので勉強になりました。
アレルギー全体の内容ということではなく、分野を絞ってある研修が役に立つと思います。　　看護師

エピペンの動画は昨年度も拝見しましたが、非常に分かり易いと思います。色々な動画を作成していただければ伝わり易いのではないでしょうか。　　行政関係者

当日会場へ行けなくても、今回のように動画視聴で学べる機会を設定してもらえると、大変ありがたいです。
教育関係者

災害時の備えについては継続した啓発をおねがいしたいと思います。　　栄養士

時間も１コマが短いので、必要なものを短時間で吸収できます。参加しやすいです。　　行政関係者

なし　　医師

当日、出張するのはできなくても、後日、動画で研修ができて、とてもありがたいです。今後も動画で研修ができるといいと思いました。　　教育関係者

知らないことだらけなので、色々教えて下さるとうれしいです。今日もありがとうございました。
保育関係者

会場に参加することができにい中、配信がある講義が大変ありがたく有意義でした。ありがとうございました。
教育関係者

３演題ともとても勉強になりました。内容に異議ありません。ただ、この動画へのアクセスが保護されていない通信であるとか、途中で動画が止まり最初から出ないとその先が見れなかったりといったことが起こったので、少したいへんでした。それから、講師の音声ですが、概ね大丈夫でしたが少し、こもった感じがする時もあり聞き取りにくいことがありました。しかし、全般的には大いに満足しています。　　医師

鼻や口腔内のアレルギーについても詳しく知りたいです　　保育関係者

子どもの食物アレルギーについて深められる研修があればお願いしたい。　　看護師

とてもためになる勉強でした。ありがとうございます　　保育関係者

資料３

アレルギーについては、定期的に学ぶ必要があると思う。そのため、毎年研修を企画していただきたい。今回眼科系でしっかり聞けたので、次回は耳鼻科系を聴きたい。　　教育関係者

多種にわたるアレルギーの勉強をしたい　　愛育委員・ディサービス職員

最新のアレルギー情報を踏まえた研修を希望します。　　教育関係者

どんなアレルギーがあるのか、もっと知る必要があると感じた　　保育関係者

例年とても参考になる内容で有意義な研修です。WEB 視聴形式で参加できるのも遠方の場合はとてもありがたいです。ぜひ今後も継続していただきたいです。ありがとうございました。　　教育関係者

最新の情報の提供を今後もよろしくお願いします。WEB 配信があると受講しやすいです。
教育関係者

資料３

令和７年度岡山アレルギー疾患講演会における実践型研修参加者アンケート結果

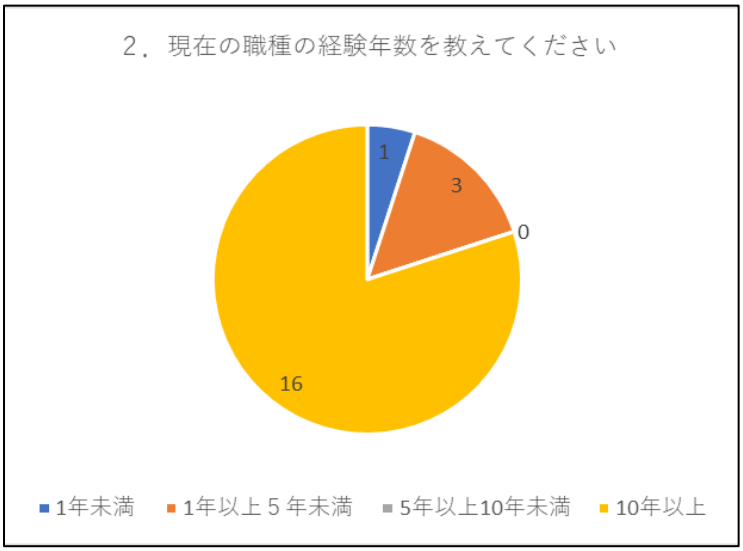
Ⅰ事前アンケート（回答者 20 名　回答率 100%）

１．職種

教育保育職　10 名　　看護師　7 名　薬剤師　3 名

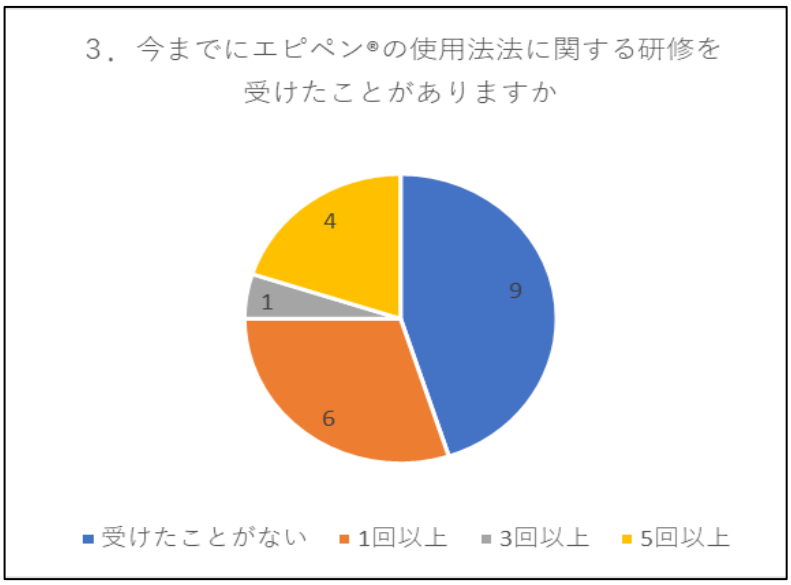
２．現在の職種の経験年数を教えてください

1年未満	1
1年以上５年	3
5年以上10年	0
10年以上	16



３．今までにエピペン®の使用方法に関する研修を受けたことがありますか

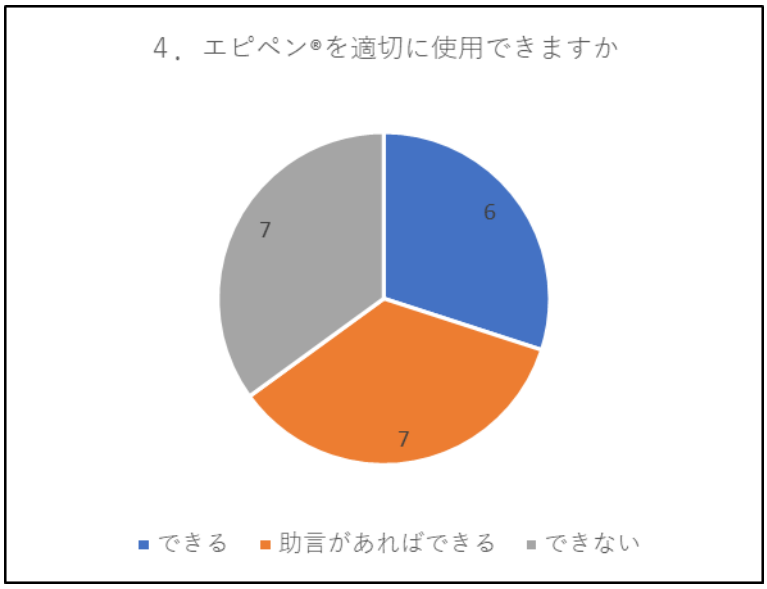
受けたことがない	9
1回以上	6
3回以上	1
5回以上	4



資料３

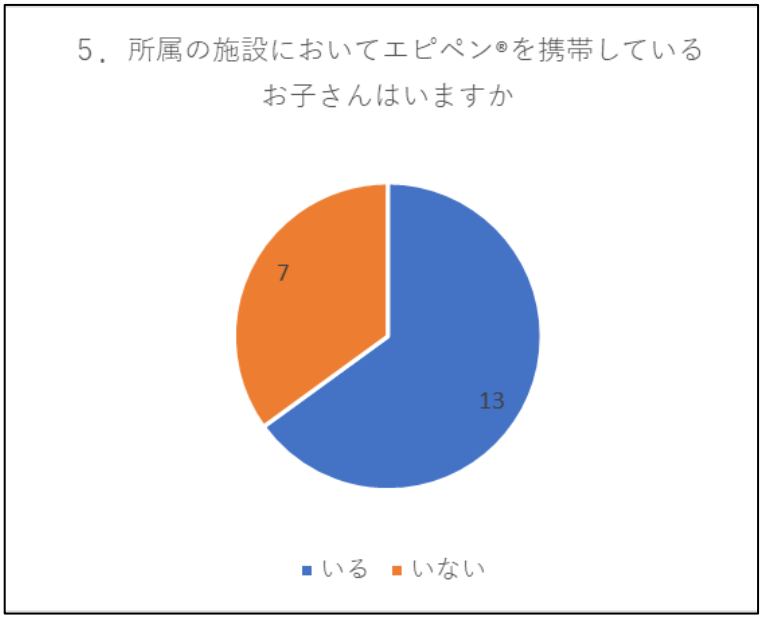
４．エピペン®を適切に使用できますか

できる	6
助言があればできる	7
できない	7



５．所属の施設においてエピペン®を携帯しているお子さんはいますか

いる	13
いない	7



事前アンケート結果からの課題

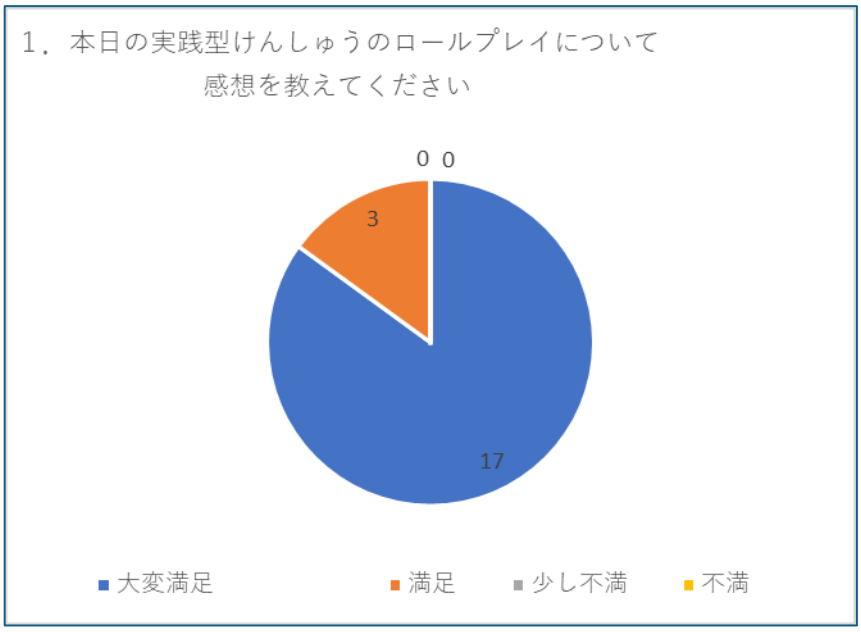
「所属の施設においてエピペン®を携帯しているお子さんはいますか」との問いに「いる」と回答があったのは 13 名であったが、そのうちの 6 名は「今までにエピペン®の使用方法に関する研修を受けたことがありますか」との問いに「受けたことがない」と回答していた。また、「エピペンを適切に使用できますか」との問いにも 4 名が「できない」と回答しており、エピペン®を携帯している子どもがいる施設において、必要な研修が実施されておらず、使用についてのトレーニングができていないのではないかと考えられた。

資料３

II 実践型研修後アンケート結果　（研修参加者 20 名　回答率 100%）

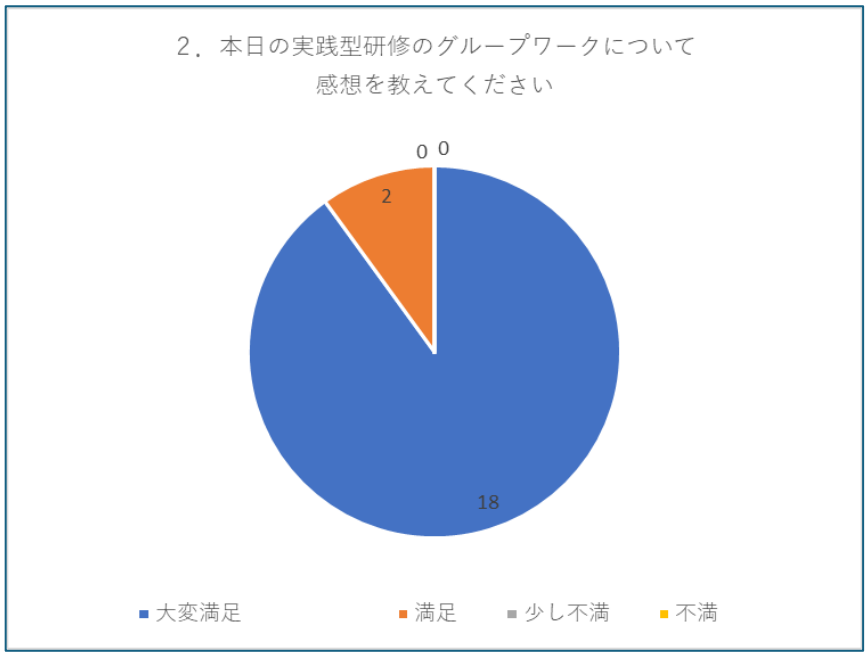
1．本日の実践型研修のロールプレイについて感想を教えてください

大変満足	17
満足	3
少し不満	0
不満	0



2．本日の実践型研修のグループワークについて感想を教えてください

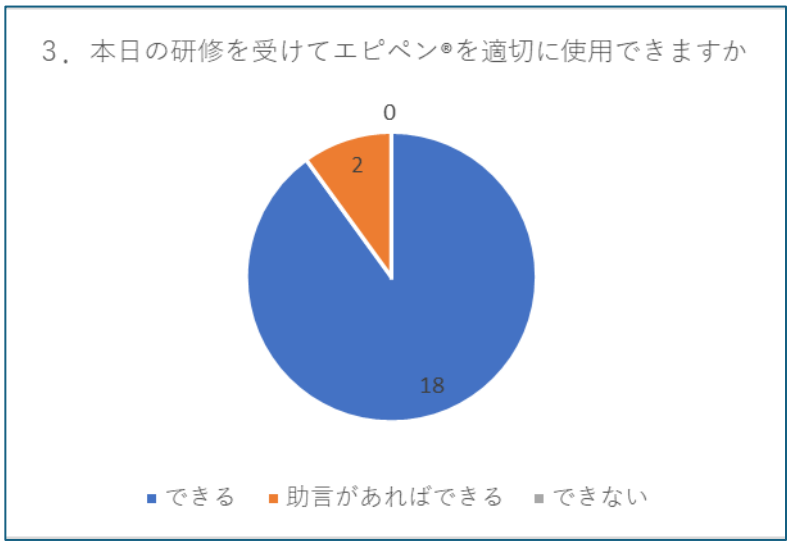
大変満足	18
満足	2
少し不満	0
不満	0



資料３

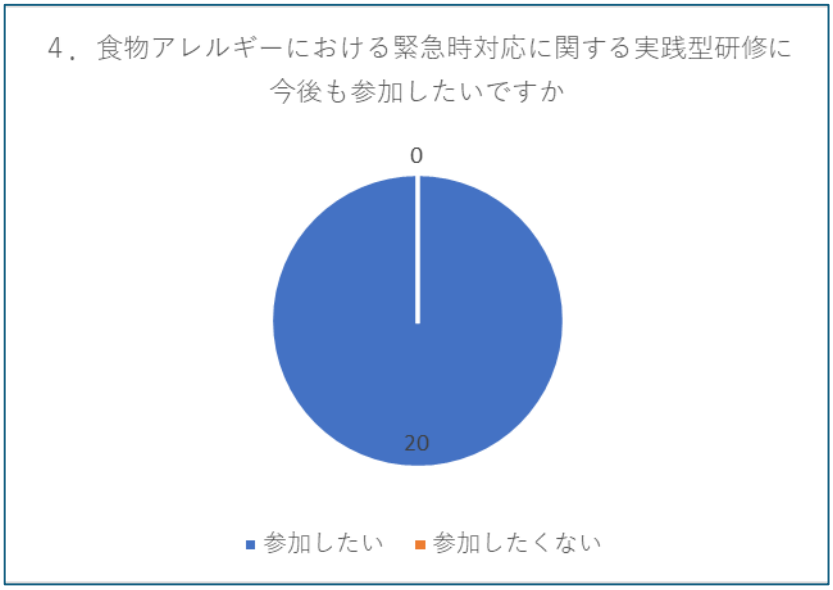
３．本日の研修を受けて、エピペン®を適切に使用できますか

できる	18
助言があればできる	2
できない	0



４．食物アレルギーにおける緊急時対応に関する実践型研修に今後も参加したいですか

参加したい	20
参加したくない	0



５．実践型研修についてご意見やご希望があれば記入してください

・他部所の方々と意見交換できてよかったです
・患児側のおかげで何が安心できるのか、考えられるきっかけとなった　先生側もやってみたい
・学童や薬局の方の話を聞かせてもらうことができ、今後のエピペンの指導に生かして
　いきたいです
・エピペンを実際に使って練習する機会がないので、」とても勉強になりました
　園に戻ってロールプレイだけでも実践したいと思いました

また、来年も参加し年１回参加することで他の職員とも共有したいと思います
とてもいい学びとなりました　ありがとうございました
・初めて参加させていただきとても勉強になりました
職場に持ち帰り今後に生かしていきたいと思います
・２回目の参加で、前回より落ち着いて対応できた　定期的に学び直すのがいいと感じた
・分かりやすかったです　多くの方からのお話が参考になりました
・毎年色んな事例でロールプレイしてみたいです
とてもためになりました　ありがとうございました
・とても良かったです　理解が深まりました　実践型が良かったです
・様々な職種の方々やお医者さんや看護師さんと話ができ、相談でき有意義な研修でした
・初めてエピペンのロールプレイを実施して頭で理解できても体が動かなかったり、言葉が出てこなかったりしたので、園でロールプレイを行って、今回の学びを深めていきたいと思った
・ロールプレイをしてみて、自分が動けないことを実感できた
立場がちがう方とアレルギーについて情報共有できて、貴重だった
・ロールプレイングでも緊張しましたが、もし実際に患児を目の前にすると手がふるえるかもしれない・・・職場に持ち帰りまた話し合いをして参考にしていきたいです
・こんな時どうしているのか等の情報共有ができ今後の活動の参考になりました
ありがとうございました
・他職種の方々とのディスカッションはとても有意義でした　職場でも情報共有させて頂きます
・グループでシミュレーション、参考になることが多かったです
ディスカッションで新ためて今後の対応の向上をしていけそうです
・職種のちがう方とディスカッションできて、学校や薬局での対応についても知れた
・様々な職種の方々と具体的事例をまじえて交流でき、興味深く、今後に生かすことができそうです！

実践型研修参加者アンケート結果【まとめ】

実践型研修におけるロールプレイ、グループワークともに満足度が高く参加者にとって有用な研修を行うことができた。

自由回答では、グループワークにおいて他職種の方々と話すことができてよかったという声が多くあった。様々な職種の立場の緊急時対応に対する視点や対応時の思いを知ることで、より学びを深めることができたのではないかと考えられる。また、それぞれの所属施設内での研修では得られない意見交換の場を提供できたことも高評価へ繋がったと言える。

事前アンケートでは参加予定者のうち 7 名（35%）が、エピペン®を適切の使用できないと回答していたが、事後アンケートではできないとの回答は 0 名となった。これは、講義だけでなく実践したことで、緊急時対応への危機感の高まりや必要な行動への理解が深まったからではないかと考える。

事後アンケートの中には、自施設へ持ち帰り共有したいとの声も散見された。本研修での学びがそれぞれの参加者の施設へ広がっていくことで、食物アレルギーにおける緊急時対応に関する啓発へ繋がっていくのではないか。

資料４



アレルギー疾患対策推進事業

岡山アレルギー疾患講演会

参加無料

2026年 2月15日(日)　講演 先着申込順 120名

岡山国際交流センター 2階 国際会議場

開場 12：30 / 終了 16：15

講演会　13：00 ～ 15：00

講演1
「眼科領域におけるアレルギー疾患」
講師　岡山大学病院　眼科　助教 松前　洋 先生

講演2
「アレルギー疾患のための災害への備えと対応」
講師　岡山県保健医療部健康推進課　主任 宿野　沙紀子 様

講演3
「アレルギー疾患における災害対応」
「食物アレルギーにおけるアナフィラキシーへの対応」
講師　岡山大学学術研究院　医歯薬学域小児急性疾患学講座　准教授 津下　充 先生

講演会参加対象の方
●医療従事者の方　●教育・保育関係者等アレルギー疾患に関わる専門職種の方　●アレルギー疾患に関心のある方

実践型研修　15：00 ～　先着申込順 30名

会場での講演後、実践型研修を行います

●エピペン®トレーナーの使用方法について
●ロールプレイ
●グループワーク（ロールプレイの感想や意見交換）

※講演会を聴講された方が参加できます。
※実践型研修は、医療従事者・教育保育関係者の方に限らせていただきます。



WEB配信　会場での講演を動画配信します

2026 2月25日(水)～3月13日(金)

※WEB配信のみ希望の方も事前のお申込みが必要です。
※会場での参加希望の方もWEB配信を視聴いただけます。

参加希望の方は事前のお申込みが必要です。お申込み方法については裏面をご覧ください。

お問い合わせ先
（独）国立病院機構南岡山医療センター
アレルギー疾患医療拠点病院対策室
〒701-0304 岡山県都窪郡早島町早島 4066
電話：086-482-1121　FAX：086-482-3883
E-mail：505-minami-arerugi@mail.hosp.go.jp

主催：（独）国立病院機構南岡山医療センター、岡山大学病院、岡山県
共催：（公財）日本アレルギー協会中国支部
後援：岡山県教育委員会、岡山市、倉敷市、早島町、（公社）岡山県医師会、（公社）岡山県看護協会、（一社）岡山県薬剤師会、岡山県病院薬剤師会、（公社）岡山県栄養士会、山陽新聞社、RSK山陽放送

アレルギー疾患対策推進事業　岡山アレルギー疾患講演会

お申込み方法

参加ご希望の方は、下記の URL か二次元コードでアクセスし、
ホームページよりお申し込みください。

https://okayama-allergy.jp/

講演会の参加について

- お申込みを行うと、仮登録の受付メールが自動送信されます。事務局でお申込みを確認後、登録手続きを行い申込完了のメールをお送りします。このメールの受信を持ってお申込みが完了となります。
- 会場での講演に参加をご希望の方は、2/15（日）に岡山国際交流センターにお越しください。
- 会場での講演は、お申込み先着 120 名となります。
  ※先着の人数を超えた場合のお申込みは、WEB 配信のみの受付とさせていただきます。
- 実践型研修は、会場での講演会に参加希望の方の内、先着30 名様となります。ご希望の方は申込時に入力してください。
  ※実践型研修は、医療従事者・教育保育関係者の方に限らせていただきます。
- WEB配信視聴のみご希望の方も、参加のお申込みは必要です。
- 会場での参加を希望の方もWEB配信を視聴いただけます。
- WEB配信を視聴ご希望の方はお申込み時に任意のパスワードを設定してください。登録したメールアドレスと設定したパスワードで視聴期間中に動画視聴ページにログインできます。



会場開催

2026 年 2 月 15 日（日）

岡山国際交流センター　2F 国際会議場

〒700-0026 岡山県岡山市北区奉還町 2-2-1
TEL：086-256-2000

WEB配信

2026 年 2 月 25 日（水）～ 3 月 13 日（金）

申込時送信必須内容

**名前、住所、職業、参加について、参加方式（会場・WEB）、
実践型研修の参加、メールアドレス**

上記必要内容を入力の上、申込登録を行ってください

申込締切日　2026 年 1 月 30 日 (金)

申込後のメールが届かない場合は、下記までお問い合わせください

お問い合わせ先

岡山アレルギー疾患講演会サイト
Web 申込サポート
E-mail：support@okayama-allergy.jp

お申し込み方法等よくあるご質問については
こちらの Q&A ページをご参照ください

https://okayama-allergy.jp/qa

資料５

第３回 岡山県小児アレルギー疾患連携セミナー　～災害とアレルギー～

１　開催日時

令和８（2026）年８月 29 日（土）15：00～16：30

２　会場

杜の街グレース オフィススクエア ３階 ホール E

３　参加者数

現地　　15 名
オンライン 42 名　　計 57 名

４　内容

岡山県の災害アレルギー対策の現状について岡山県担当者から講演後、その後のディスカッションを含め、各専門職（医師・薬剤師・看護師・栄養士）の方にご講演いただいた。

〈講演パート〉

① 「岡山県の災害アレルギー対策の現状について」
（岡山県保健医療部健康推進課健康づくり班　総括副参事　栗原　修平）

② 「災害時の食物アレルギー児の実際　管理栄養士の立場から」
（岡山県栄養士会　会長　坂本　八千代）

③ 「アレルギー治療を“止めない”ための災害対応―薬剤師の立場から―」
（岡山県薬剤師会　災害対策特別委員会　倉敷中央病院　薬剤本部
竹増　真也）

④ 「アレルギー疾患における災害への備え―アンケート結果から―」
（南岡山医療センター　アレルギー疾患医療拠点病院対策室
黒岡　昌代）

⑤ 「災害時のアレルギー児への対応（備えは十分ですか？）」
（ニコニコこどもクリニック　院長　山口　和誠）

〈ディスカッションパート〉

テーマ：岡山県の現状から対策を考える（自助・共助・公助）

第3回岡山県小児アレルギー疾患連携セミナー

資料６

～災害とアレルギー～



事前申し込みフォーム
期限：8月28日（金）終日中

■日時：2026年8月29日(土)15:00～16:30
■配信会場：杜の街グレース オフィススクエア 3階 ホールE
住所：〒700-0907 岡山市北区下石井2-10-12
■開催形式：ハイブリッド開催（現地聴講可能（駐車場有）/Zoom Webinar）
■参加登録方法：PC･スマホからはこちらをクリック（登録フォームからも登録可能）

写真提供：岡山後楽園

総合司会/オープニング　岡山大学 小児急性疾患学講座　教授　津下 充 先生

災害が増えつつある今、小児アレルギー疾患への災害時対応を考える

Session1：講演パート（15:10~16:10）

演題①『岡山県の災害アレルギー対策の現状について』
演者:岡山県保健医療部 健康推進課 健康づくり班 総括副参事 栗原 修平 様

演題②『災害時の食物アレルギー児の実際 管理栄養士の立場から』
演者:岡山県栄養士会　会長　坂本 八千代 先生

演題③『アレルギー治療を“止めない”ための災害対応　―薬剤師の立場から―』
演者：岡山県薬剤師会 災害対策特別委員会　倉敷中央病院 薬剤本部 竹増 真也 先生

演題④『アレルギー疾患における災害への備え　－アンケート結果から－』
演者:南岡山医療センター　アレルギー疾患医療拠点病院対策室 黒岡 昌代 先生

演題⑤『災害時のアレルギー児への対応（備えは十分ですか？）』
演者：ニコニコこどもクリニック 院長 山口 和誠 先生

Session2：ディスカッションパート（16:10~16:30）

※ディスカッションは案内状に記載されている役割者のみで実施いたします

テーマ：　岡山県の現状から対策を考える（自助･公助･共助）

閉会の辞　岡山県小児科医会 会長 髙杉 尚志 先生（高杉こどもクリニック 院長･理事長）

共催：岡山県 / 岡山県小児科医会 / 大塚製薬株式会社
後援：厚生労働省 / 岡山県薬剤師会 /（公社）岡山県栄養士会

問い合わせ先：大塚製薬（株）岡山出張所 鹿山 聖史 080-6795-7788 ✉ Shikayama.Masafumi@otsuka.jp

※ご参加いただいた確認の為、ご芳名の記帳、WEB入室時に施設名、氏名のご入力をお願い申し上げます。ご登録頂きましたe-メールアドレスその他の個人情報は以下の目的に使用いたします。
1. 弊社会員制ウェブサイトログイン時の会員認証及び画面表示設定。2. 弊社からのe-メールマガジンおよび、MRからのe-mailによる連絡。なお、ウェブサイトの改善やMRからの情報提供の参考としてアクセスログ情報を活用させていただくことがあります
また事前の許諾なく、大塚製薬株式会社の業務委託先を除く第三者に提供することはありません。個人情報は、弊社の個人情報保護方針に基づき安全かつ適切に管理致します。
・この講演会への参加には事前登録が必要です。参加時には氏名・講演会への参加用URLは転送をご遠慮願います・ログインの際には、ご施設名、お名前のご入力をお願い致します。・講演会の録画/録音はご遠慮願います。

資料７

アレルギー疾患に関する啓発動画の公開について

１　岡山県公式 YouTube チャンネルでの公開

専門医療従事者の方に作成いただいたアレルギー疾患に関する動画を、岡山県公式 YouTube「晴れの国おかやまチャンネル」へ下記日程で順次公開中である。

令和８年８月 24 日公開

「成人の気管支喘息について」（南岡山医療センター　谷本　安　医師）

令和８年９月 17 日公開

「食物アレルギーとアナフィラキシーへの対応
―もしもの時に命を守るために―」（岡山大学病院小児科　津下　充　医師）

令和８年 10 月 16 日公開

「アレルギーと上手に付き合う生活のコツ」
（南岡山医療センター　黒岡　昌代　看護師）

令和８年 11 月公開予定

「アレルギー性結膜炎（仮）」　（岡山大学病院眼科　松前　洋　医師 ）

動画の公開と同時に、岡山県健康推進課のホームページにもリンクを掲載するなどの周知を行った。

２　報道機関の反応

第１弾動画の公開に合わせてプレス発表を行ったところ、KSB 瀬戸内海放送の Web ニュースに取り上げられ、Yahoo ニュース等の各ニュースサイトへも掲載された。

また、第４弾動画が公開されるタイミングで、動画が全て公開されたことをお知らせする、再度のプレス発表を予定している。

資料７

〈岡山県公式 YouTube「晴れの国おかやまチャンネル」〉(https://www.youtube.com/user/okayamapref)



〈出典：KSB 瀬戸内海放送〉(https://news.ksb.co.jp/article/16830901)

正しい知識を身に付けよう！岡山県がアレルギー疾患に関する啓発動画を公開

2026/8/24 17:43　#岡山　#社会　#行政　#科学・医療



岡山県庁

岡山県は、アレルギー疾患に関する正しい知識や新しい情報の普及と啓発のため動画を作成し、24日から順次公開します。

24日、第1弾として公開された動画は、「成人の気管支喘息について」です。国立病院機構 南岡山医療センターの谷本 安 医師が、成人の気管支喘息について、症状や正しい診断と適切な治療などについて分かりやすく解説しています。

県では今後、9月に「食物アレルギー（仮）」（岡山大学病院小児科 津下 充 医師）、10月に「アレルギー疾患の方が生活の中で気を付けること 環境・スキンケア(仮)」（国立病院機構 南岡山医療センター 黒岡 昌代 看護師）、11月に「アレルギー性結膜炎（仮）」（岡山大学病院眼科 松前 洋 医師）を順次公開する予定です。

動画は、晴れの国おかやまチャンネル（YouTube）で視聴できます。

執筆：KSB報道
岡山・香川エリアを中心に日々ニュースを取材、発信しています。

資料８

令和８年　８月２４日

課名	健康推進課
担当	栗原・日笠
内線	3463・3466
直通	226-7328

お知らせ

アレルギー疾患に対する正しい知識を身に付けよう！
啓発動画を順次公開します

アレルギー疾患は、国民の約２人に１人が罹患しているとされ、その患者数も増加傾向にあります。インターネットなどにはアレルギー疾患に関する膨大な情報があふれており、この中から適切な情報を選択することが困難となっています。

そこで岡山県では、アレルギー疾患に関する正しい知識や新しい情報の普及・啓発のため、動画を作成し、順次公開いたします。

この度、第１弾の動画を公開しましたのでお知らせします。

記

１　公開動画

（１）タイトル：「成人の気管支喘息について」

独立行政法人国立病院機構　南岡山医療センター

谷本　安　医師

（２）内　容：成人の気管支喘息（ぜんそく）について、その症状や、正しい診断と適切な治療などテーマごとに短くまとめ、わかりやすく解説されている動画です。

２　配信スケジュール

・令和８年８月２４日　第１弾：今回公開

・令和８年　９月　第２弾：「食物アレルギー（仮）」
岡山大学病院小児科　津下　充　医師

・令和８年１０月　第３弾：「アレルギー疾患の方が生活の中で気を付けること
環境・スキンケア（仮）」
独立行政法人国立病院機構　南岡山医療センター
黒岡　昌代　看護師

・令和８年１１月　第４弾：「アレルギー性結膜炎（仮）」
岡山大学病院眼科　松前　洋　医師

※各月中旬頃の公開予定としており、タイトルは予定です

３　公 開 先

晴れの国おかやまチャンネル（YouTube）

Part1：https://youtu.be/K1xoCNp-Krk

Part2：https://youtu.be/1xgaKrL8kM8

Part3：https://youtu.be/uWcR7VfDlPw

資料９

アレルギー疾患専門医療機関リスト化調査について

１　県ホームページでの公表

「アレルギー疾患専門医療機関リスト化調査」の結果について、表形式（エクセルファイル及びＰＤＦファイル）で県ホームページに掲載している。

また、「アレルギー疾患専門医療機関リスト」の新規登録・修正・削除申請フォームをホームページに常設し、リストの修正依頼等に対し適宜対応することとしている。

２　おかやま全県統合型ＧＩＳでの公表

令和７年３月に、おかやま全県統合型ＧＩＳにて「アレルギー疾患専門医療機関マップ」を公表した。

地図上のアイコンを選択すると、医療機関の情報を確認することができる。

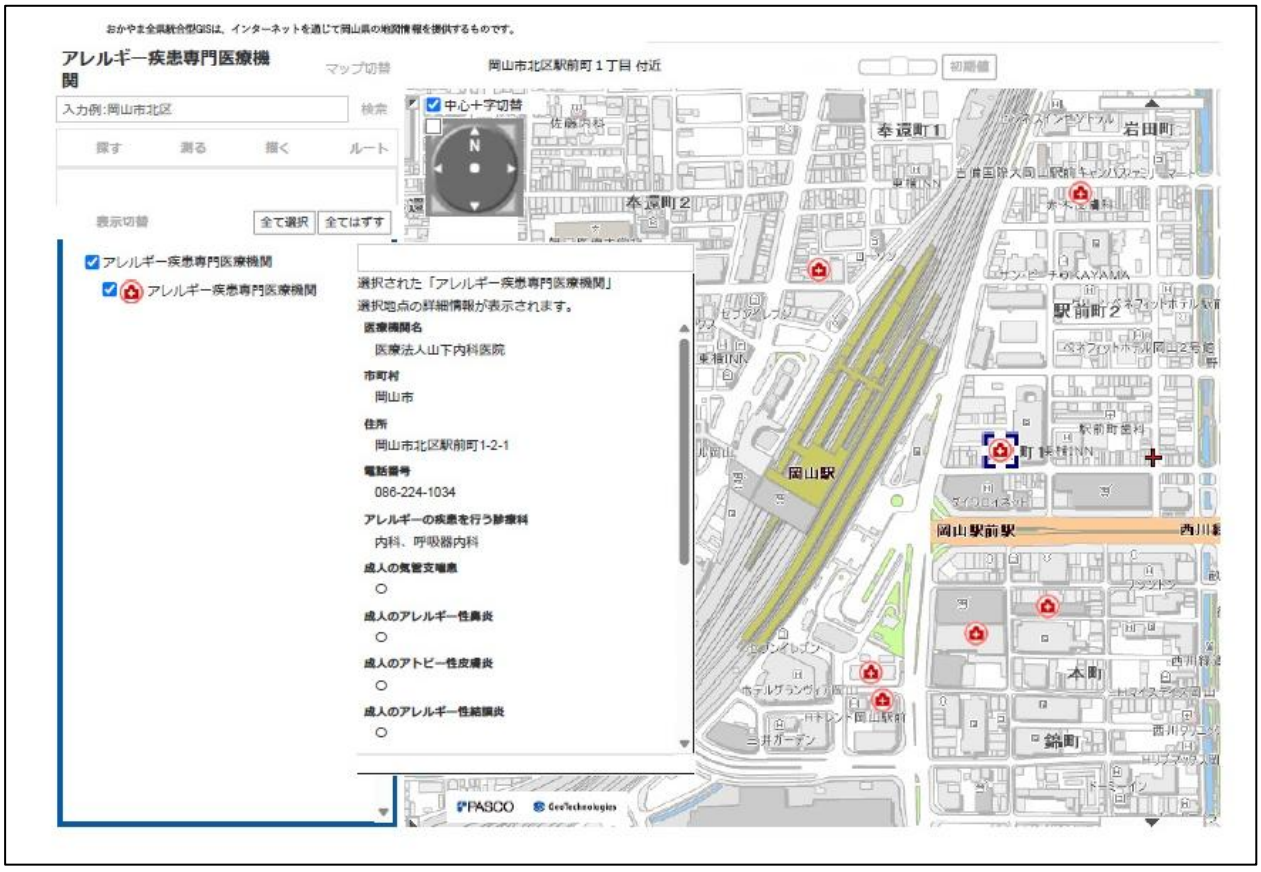
なお、ホームページに掲載している内容よりも、簡易な情報を掲載している。

【掲載内容】

・医療機関名　・住所　・電話番号　・診療科　・診療内容

・受診予約の要不要　・紹介状の要不要

【ＧＩＳのイメージ】

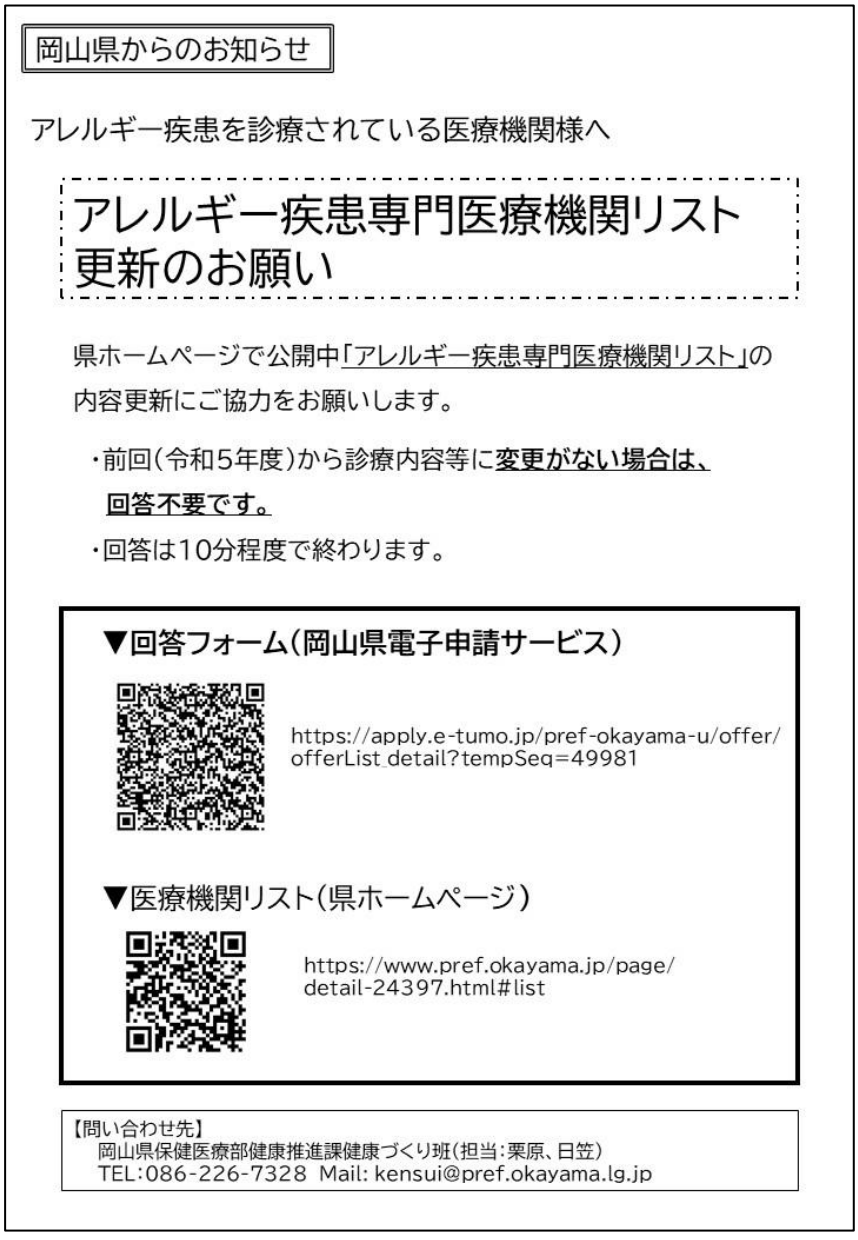


資料９

３　医療機関への周知

岡山県医師会報（令和８年 10 月 25 日発行）にて、「アレルギー疾患専門医療機関リスト更新のお願い」を掲載し、医療機関に対し周知を図ることとしている。

【掲載内容】



岡山県からのお知らせ

アレルギー疾患を診療されている医療機関様へ

アレルギー疾患専門医療機関リスト
更新のお願い

県ホームページで公開中「アレルギー疾患専門医療機関リスト」の
内容更新にご協力をお願いします。

・前回（令和5年度）から診療内容等に**変更がない場合は、回答不要です。**
・回答は10分程度で終わります。

▼回答フォーム（岡山県電子申請サービス）

https://apply.e-tumo.jp/pref-okayama-u/offer/offerList_detail?tempSeq=49981

▼医療機関リスト（県ホームページ）

https://www.pref.okayama.jp/page/detail-24397.html#list

【問い合わせ先】
岡山県保健医療部健康推進課健康づくり班（担当：栗原、日笠）
TEL：086-226-7328　Mail: kensui@pref.okayama.lg.jp

資料１０

来年度の取組について（案）

１　アレルギー疾患に関する研修

令和６年度から実施している「岡山県小児アレルギー疾患連携セミナー」（大塚製薬株式会社、岡山県小児科医会共催）を、令和８年度から岡山県アレルギー疾患対策事業として位置づけ、岡山県も共催に加わり実施した。

※大塚製薬は、薬機法第 67 条（一般人への医薬品の広告禁止）により、一般県民向けのセミナー実施は難しいが、医療従事者向けや保育関係者等、対象を限定するのであれば実施が可能とのこと

令和９年度も引き続き、共催により研修会を実施する。

２　アレルギー疾患に関する啓発動画

今年度公開分と同様に、４本程度の動画公開を行う。

３　アレルギー疾患専門医療機関リスト化調査

「岡山県電子申請サービス」を活用した、「アレルギー疾患専門医療機関リスト」の新規登録や変更等の申請フォームへの登録により、定期的なリストの更新を行う。

併せて、年１回程度医療機関リストについての広報を実施し、医療機関へリスト更新への協力を呼び掛ける。

４　岡山県アレルギー疾患医療連絡協議会の開催

令和９年度は、令和９年１１月頃の開催を予定している。